

令和2年度 第2回栗東市市民参画等推進委員会

- 日時 令和3年3月29日(月) 13:30～15:30
- 場所 栗東市役所庁舎4階 第1委員会室

- 出席者 新川委員長、川邊副委員長、高宮委員、奥村委員、山中委員、池田委員、奥本委員、幡委員、吉川委員、西川委員、川中委員
市民政策部：木村部長
自治振興課：川津課長、松本課長補佐、原係長、不破主査、西居主事補

議事記録(概要)

1. 開会 進行：自治振興課長
2. 市民憲章唱和
3. あいさつ
4. 報告事項 進行：新川委員長

○令和2年度 元気創造まちづくり事業実施報告 資料1に基づき説明

(委員長)

令和2年度の元気創造まちづくり事業の報告ので、コロナ禍で残念ながら思うように活動できなかった団体もあったが、一方で、この間もいろいろ工夫をしていただきながら事業を進めた団体もあった。また、令和3年度の事業採択団体の報告で何か質問や意見があればお願いします。

(副委員長)

県内に聾話学校があるが、視覚障がい者の学校はあるか。

(市民政策部長)

県立盲学校がある。

(委員長)

今年度の元気創造まちづくり事業は色々大変であったが、工夫して活動していただいたところと、残念ながら2つの団体が活動できなかったところがある。いずれもまた来年度頑張っていたら、令和3年度の活動に期待したい。

○未来へつなぐ市民活動応援事業実施状況・資料説明：事務局

資料2に基づき説明

(委員長)

未来へつなぐ市民活動応援事業で、500万円近い寄附が集まったことで、大きな成果があがりそうである。各委員から質問や意見など、また、審査に関わった委員からも追加で説明があればお願いします。

(委員)

未来へつなぐ市民活動応援事業の採択団体にも、元気創造まちづくり事業の成果報告会と一緒にポスターセッションに加わっていただけると、元気創造まちづくり事業で助成を受けた団体は、この次のステップに繋がるのでは。CoCo愛や演劇祭も元気創造まちづくり事業の助成金卒業団体であり、いいのではないかと他の委員と話していた。検討していただければと思う。

(委員長)

ぜひ事務局でも検討していただければと思う。未来へつなぐ市民活動応援事業に採択され、その資金をもって活動を進めていくので、その結果を報告する機会を皆さんに広くできればと思う。

(委員)

資料2の行政担当からの立場で書いてあるが、この制度に乗って寄附募集された3団体のちょっとした意見や感想、コメント等があれば教えていただきたい。

(事務局)

団体には、3月1日時点で、2月までに寄附がどれくらい集まっているかを連絡している。具体的な金額ではなく、現在の目標額に達成した団体には、「達成した」という旨を連絡している。栗東演劇祭については、今現在の額を伝えた。

栗東演劇祭の代表に話を聞いたところ、「寄附していただいた額の中で、事業は実施していきたい」と聞いている。また、「初めての寄附募集」という内容でフォロー講座をしたが、CoCo愛は多く参加いただいたが、栗東演劇祭は、1月でコロナの感染拡大

の心配もあり、参加を断念されたこともあり、事務局であまり具体的なフォローができなかった。来年度以降に引き続き、フォローしていけるように検討したい。

(委員)

CoCo 愛は十分に資金が集まり、逆に、栗東演劇祭は講座に参加しなかったからということではないと思うが、どこで差が出たのかは、事務局としてどう考えているか。この制度を継続していく一つのポイントであると思う。

(事務局)

その分析までは、まだ十分に話できてない。

(委員)

栗東演劇祭は、SNS等を使い、広範囲に広報してそうである。これは、結果としてこれだけ差が出てきたのか。

(事務局)

団体への確認まではできていないが、事務局としては、他の2つの団体は、個々に声掛けをされたと推測する。CoCo 愛についても、SNSで全体にというよりは、むしろ関係者の方に声掛けをしたことが大きいと考える。

栗東演劇祭は、ツールを多く活用し情報発信をしていると思うが、個別の声かけが足りなかったか、もしくは代表者が言っていたところで、声掛けをした相手が、ふるさと納税をする世代でなかったことが要因と思われる。CoCo 愛に成功の秘訣を聞き、他団体に共有していきたいと思う。

(委員)

返礼は何が返礼品になるのか。

(事務局)

特に団体の返礼ということではなく、栗東市が設定している返礼になる。

(市民政策部長)

市のふるさと納税になるため、市外の方から寄附があった場合、その相当額の返礼品を希望された方にはお渡しさせていただく形になる。

(委員)

返礼品は団体と繋がっていないのか。

(自治振興課長)

団体としてではなく、栗東市のふるさと納税制度を活用していただくことになる。市民活動の応援の項目があるため、そこの中での取扱いになる。栗東市の返礼品では、近江牛や馬関連のグッズなどを毎年リニューアルし、用意している。市外から寄附があった場合は、栗東市の返礼品を渡す対応になる。

(市民政策部長)

寄附をいただいた方へ団体からのお礼状、もしくは、市からお渡しさせていただくという形で考えている。

(委員長)

寄附を集めるにも、それぞれ集める側の活動の仕方、関わりがある方々への声掛けが大きな手がかかりになることは間違いない。また、広く一般に投げかけてもなかなか寄附が集まらないことが実態としてある。このことについて、今後しっかりと団体や関係者に広めていただきたい。

今後も積極的にこの制度を活用してもらうためにも、多くの団体に参加いただき、寄附集めの実績を積んでももらうためにも、今年度の経験をしっかりと広報していただきたい。広報するためにも、この一連の経験を事務局としてもしっかりと分析し、今後どのように運用していくかを団体にも知ってもらい、多くの方が積極的にこの制度に参加していただきたい。また、ふるさと納税の制度を活用し、多くの市民活動へお金が集まるような仕組みが、更に充実すればと思う。そのためにも、元気創造まちづくり事業の成果発表会などで、未来へつなぐ市民活動応援事業の報告も合同でできればという提案もあったため、検討していただきたい。

○栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条例行動計画における各課取組み実績について・・・資料説明：事務局

資料3に基づき説明

(委員長)

各委員から質問、意見いただければと思う。

(委員)

谷先生の協働によるまちづくり職員研修は、こういった方が対象になるのか。

(事務局)

職員研修については、色々な対象を年ごとに変えながら実施している。今年度については、係長級を基準としている。主に受講希望者と、まちづくりと関係のある部署には個別に声掛けをしている。また、コミセンの副センター長は、主に地域振興協議会の事務局を担当しているため、そういったところからも参加してもらい実施している。

(委員)

提案であるが、例えば、ふるさと納税の中で栗東演劇祭など、あまりお金が集まらなかったという話があったが、実際に栗東高校の文化祭に行き、そこで演じられていた演劇に非常に感動した。長い間、演劇祭が続いてきたにも関わらず、市内での盛り上がり全然ないことが、この一つの数字と思われる。団体の活動を活性化するために、色々繋がりを作る手を打っていると思うが、まち全体の事業として、文化事業を育てていくことを今後の計画の中に入れていただければと思う。

(委員長)

ぜひそういった観点を担当者にも伝え、市民活動に関わらず、様々な文化活動全体を盛り上げ、市民の方とともに楽しみ、支えるような雰囲気を作ることも大切であると思うため、そういう観点で進めていただけないかということをお聞きかけとして、この推進委員会で議論があったことをお伝えいただければと思う。

(副委員長)

演劇祭は難しいが、音楽祭は出来そうである。しっかり何かを企画してやる気を出せば市役所内の駐車場でも出来そうである。

(事務局)

演劇祭は、例年6月頃に公演やアウトリーチもしているが、コロナの影響を受け中止された。その場での情報発信が大きくなったと思うが、それも少し至らなかった。また、演劇祭での集まりは、市内だけでなく県内の方も多いため、一同に会する場もなかった。SNSで情報発信をされていたが、互いに顔を合わせ、何かやっ払いこうという取組みが少し出来ていなかったと感じている。

(委員長)

そういう障害を乗り越えて進めていただければと思う。

(副委員長)

最後のコミュニティ団体で、タイトルの「他の自治体はどうしているか知りたい」と

いうところで、例えば、川辺自治会だけでは小学校に行くまでの子どもが200人、小学生が160人程いる。中学を卒業するまでの15年ぐらいは、子どもたちを支援することを大きなテーマとして活動している。

また、地振協の部会の成り手で若い方が出てくると、その時は自治会活動に馴染んでもらおうとし、そのためにも、まずは仕事を優先してもらい、無理をしてもらわないようにしている。最後によかったと思ってくれるような自治会活動をしなければならない。

あと、コミセンが意外と使われていないことは少し厳しいが、コミセンの使用料の基準はどの様になっているのか。

(自治振興課長)

使用料は条例で決まっており、その部屋の規模にもよるが、1時間大会議室1,000円、その他の部屋は200円、他に休日、夜間などの加算金が必要な場合がある。

(副委員長)

ボランティア団体がコミセンを使用するのに、なぜ使用料を取るのかという意見もある。

また、コミセンの職員が地振協の引き継ぎの要をしっかりと担うべきだと思う。自治会であれば前任者が引継書を作り、後任者に引継ぎをする。最近では自治会によって個性が異なるため、当事者が一生懸命に考えなければいけない。

(委員長)

参考にさせていただければと思う。特に、一つ一つの自治会で、それぞれの特徴や個性、歴史や文化の違い、そこでの構成員の方々の暮らしの実態があり、それに応えられるような活動をそれぞれが工夫してやっておられる。また、そういう方々が色々な工夫をしているところをしっかりとフォローできるような支援体制、或いはコミセンの運営、地振協自体もそこを支えていけるような活動ができそうである。そういうところを共有できればと思う。

(委員)

今の話の関連であるが、自治会などの地域組織は、コロナの影響により色々な行事ができず、活動に困られていたと思う。しかし、良い意味で、この機会に行事や組織を見直すことにもなった。元に戻すという支援だけではなく、何か変えていこうという意欲があるところがあれば、そういう支援をしていくことも大切であると思うが、そういう声は上がっていないか。

(市民政策部長)

他の自治会長と話では、一つ良い機会であり、この一年間活動しているところで事業が増え過ぎていたところを、スリムアップを図る機会があった。ただ全部やめてしまうのではなく、見直すという良い機会になったということであるが、次にどう活動していけばいいのかわからないところもある。自治振興課で相談を受けている中で、「例えば、この自治会はこう活動されていますよ」と情報提供をしたり、単独ではなかなか事業ができない自治会も出てきたという報告が上がっている。

(委員長)

このコロナで活動しなくて済み、楽になったという意見もあるが、一方では、活動できずに寂しいという意見もある。これを次年度、どのように組み立て直していくのか考える良い機会であると思う。

また、各自治会へ自治振興課を通して、行政でもコミセンでもしっかりとフォローしていただければと思う。

(委員)

コミセンは、地域づくりの重要なポジションになるが、なかなかそこまで至っていないという状況である。形式ばった中で意見を求めても、なかなか意見が出てこないため、気軽に話せる場で意見を出せればと思う。また、SNS を使用し、若い方の意見を募集しても面白いアイデアが出てくるため、一度こういう試みもしてみればと思う。

また、資料 4 の「これからの地域社会づくり」で、地域の関係性が希薄になってくるとあるが、最後はやはり人と人との繋がりが大切であると分かる。これからの生活もネットワークで繋がり、社会はさらに進化していくため、今から準備していく必要がある。

(副委員長)

コミセンでティーサロンをしてみればどうか。地振協でアンケートを取ると、日曜日を閉鎖せずに月 2 回ぐらいは開放すればどうかという意見があった。どこかのコミセンで、入って直ぐにサロンがあるようなコミセンがあれば見学に行きたいと思うがそういうところはあるか。

(事務局)

コミセン大宝でコーヒーを飲みながらくつろげるようなコミュニティスペースがある。

(副委員長)

そういうコミセンを設計してもらい、試しにやってもらえればと思う。

(委員長)

地域の施設の使い方について、昔ながらの集会所のような使い方しか分からないところが多いが、全国各地で色々と工夫をし始めている。子どもたちの交流やお年寄り子どもとの交流の場を作っていただければと思う。生涯学習とも連携をし、学びの機会を付け加えたり、要するに付加価値を付けていかないとなかなか関心を持っていただけない。反対に、せっかくの施設の価値が生きてこないということもあり、単なる集会所だけでなく、もっと積極的に施設の価値を付けていくような運営の仕方も含めて検討するべきという議論もあるので、今後に向けて検討していただければと思う。

(委員)

現在、ボランティアさんが全く事業をすることができなく、非常に寂しい思いをしている人がたくさんいると思う。今はリモート会議などがあるが、パソコンでどこを触ればいいのか分からない時がある。そのため、高齢者サロン等で、楽しく受講できるようなパソコン講座を企画していただければと思う。

(委員長)

子育てサロンや親子の様々な活動を支援するやり方として、リモートですることが全国的に増え注目を集めている。また、子育て相談や子どもたちを遊ばせるのも大勢で集まれないため、Line や ZOOM などの様々なネットワークを使って実施している。それをサポートすることもこれから必要になり、ボランティア活動や市民活動を活発にしていくためにも備え、上手く使いこなせるような技術を市民の皆さん方に習得していただくことは大事かもしれない。また次年度に向けて検討していただければと思う。

(委員)

補足資料4の「具体的手法」で「連続講座や小さな企画の積み重ねで繋がりづくり」とあるが、私も大事なことだと思っている。ハードなものを作ることに比べれば、比較的安価にできる施策であり、ZOOM 講座などで「今みんなが何を知りたいか」みたいなことをネットワークで対応できれば、すぐに取り付くのではないか。「みんなが困っているから、私たちで何とかしよう」という、ただの趣味サークルではない一歩を踏み出していただけるようなボランティア団体ができる種まきみたいなものにもなる。コミセンであれば、どう運営していくかというテーマで、サロンをどうすれば作れるかみたいな講座でもいいと思う。そうすると、それに参加することは、何か興味があったりする人であるため、そういう人たちが何人か集まると力になり、実際に動かさせていけることにもなりやすいと思うので、ぜひ検討していただければと思う。

(委員長)

市役所だけではなく、コミセンやその運営に関わっている人たちの中でそういう雰囲気積極的に作っていったらいいかもしれない。

コロナでまだしばらくは大変であるが、この中で色々工夫の余地はあるということで、今日皆様方からご意見をいただいた。それらをしっかりと参考にいただき、次年度の事業を進めていただければと思う。

5. 閉会

あいさつ 川邊副委員長